SCJ 59.



South Sudan

＜特集＞南スーダンの子どもたち



Save the Children
JAPAN









南スーダンの子どもたち　Photographers: Jenn Warren, Susan Warner, ZETS, SC and SCJ

「こどもの生きる力、私たちＳＣが支えます。」

～ひとつひとつの命が輝きを持つために～

いつもご支援をありがとうございます。
今年7月9日、アフリカ大陸に、新しい国が誕生しました。
国名は南スーダン共和国。国土は日本の約2倍。人口約830万人*。うち半数以上が18歳未満の子どもたちです。
アフリカで、一番長い内戦を経験したこの国は、まさにゼロからのスタート。
笑顔の子どもたちは、平和への夢と希望を抱いて、それぞれの一歩を踏み出したばかりです。
私たちＳＣも、いつかこの国を背負って立つ子どもたちを、
しっかりサポートしていきたいと考えています。
今回その一つとして、ＳＣＪは、保健・栄養分野での緊急支援活動を実施しました。
南スーダンでは、干ばつと、慢性的な食料不足のために、
重度の栄養不良で苦しむ子どもがたくさんいます。
生まれて間もない子どもたちが、その小さな体で、自分の命と向き合っている。
そういう子どもたちが、健康を回復し、学校に通い、そして、平和を担う大人に成長できるよう
私たちが行った活動について、今回はお伝えします。

South Sudan 

＊：2008年の第５回人口調査による。
ＳＣは、セーブ・ザ・チルドレンの略です。ＳＣＪは、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンの略です。

6村37の集落を訪問。
22,563人の子どもの
栄養状態を3段階で測定し
それぞれの支援を行いました。

巡回診療

Level 1. 軽度の急性栄養不良の子ども

- 巡回チームが巡回診療。2週間に1回
- 定期健診をし、混合補助栄養食*の配布

1,873 / 22,563

*：モロコシ・大豆を主原料とし、ビタミン・ミネラルを加えて栄養価を高めたもの


巡回診療の様子

巡回診療

Level 2. 重度の急性栄養不良の子ども

- 巡回チームが巡回診療。毎週1回
- 定期健診をし、治療栄養食（ブランピーナッツ）の配布
- ビタミンAカプセルと基礎的な薬剤の処方

531 / 22,563


ブランピーナッツをほおばる子ども

入院治療

Level 3. 合併症を伴う重度の急性栄養不良の子ども

- 下痢やマラリア、肺炎などを患い、命の危険にある子どもが入院
- 24時間体制で医療スタッフと保護者がつきそい
- 治療用ミルクによる栄養回復、脱水症・感染症の治療など

78 / 22,563


スタッフが栄養食を与えているところ



カポエタ北部にSCJが増築した栄養不良集中治療センター

子どもの命を守るSCJの活動

東エクアトリア州、カポエタ北郡の子どもの現状と栄養改善


事業立ち上げを行ったSCJの三上恵美子スタッフと南スーダンのスタッフたち

今回の支援地は、東エクアトリア州カポエタ北郡。半乾燥地帯に属するこの地域は、2008年から2009年にかけ、雨が降らずに干ばつとなり、2010年にかけては、州全体の70％近くの住民が、食料不足に見舞われました。その結果、カポエタ北郡だけで、急性の栄養不良の子どもが全体の15.8％、約5人に1人が栄養不良となり、世界保健機関が定める緊急値、15％を超える深刻な状況になってしまいました。

そしてさらに深刻なのが、5歳未満児の死亡率。南スーダンでは、1千人中135人、実に10人に1人が5歳の誕生日を迎えずに亡くなっています。*直接の原因は、下痢やマラリア、肺炎といった病気ですが、約半数は栄養不良をわずらっており、免疫力の低下が、命をおとす危険な病気にかかりやすくさせてしまっているのです。

この危機的な状況を克服するため、支援活動はまず、5歳未満の子どもの栄養状態を測ることから始めました。その人数2万2千563人。郡にある全6村、37の集落をカバーしました。

ちなみに、今回この測定に関わったのは、現地で採用した、看護師などで構成される巡回チーム。南スーダンでは、医療システムが確立されておらず、小さな診療所が点在するだけ。子どもたちの所へは、私たちから会いに行かなければなりません。車とは言え、とても骨の折れる仕事。ですが、今回雇ったスタッフたちは、「国の明るい将来のために」と、真摯に仕事をこなしてくれました。

さて、測定の結果、2千482人を急性の栄養不良と特定し、この子どもたちを、栄養不良の度合によって3つのカテゴリーに分けました。①症状が軽い、②症状が重い、③症状が重い、かつ別の病気にもかかっている。①と②の子どもたちについては、その治療として、巡回チームが週単位で郡内をめぐり、定期健診と栄養食を配っています。

そして、病気もわずらっている③のカテゴリーの子どものためには、今年、栄養不良集中治療センターを増築しました。医療スタッフが24時間3交代制で、治療用ミルクによる栄養回復、脱水症や感染症の治療などを行っています。

入院したばかりの子どもは、衰弱しきって栄養食を口にできず、苦しそうなのですが、治療がすすみ、自分の力で食事ができるようになっていくその姿は、たのもしく、子どもの生命力を感じます。「子どもの人生が変わった！」そう言って喜ぶ親もいます。2月の開設以来、3ケ月で78人の子どもがセンターに入院し、そして58人が退院。ほかの栄養不良の子どもと同じ、巡回チームの外来診療にうつることが出来ました。



*：5歳未満児の死亡率は南スーダン政府の統計による。

more Information

カポエタ北郡のタポサ族のこと。

カポエタ北郡は東エクアトリア州を構成する8郡のうちの1郡。人口約110,000人*。主に「タポサ」という部族が、親族とともに柵で囲まれた集落に住んでいます。タポサ族は、ほとんどが遊牧民で、牛、ヤギ、羊といった家畜が主な収入源。また、「ソルガム」(モロコシ)などの穀物を限られた面積で栽培し、ソルガムのおかゆが主食になります。乳幼児は基本的に裸ですが、たとえば女性たちは、カラフルなアクセサリーと色とりどりの布を合わせたスカートを身に付けます。



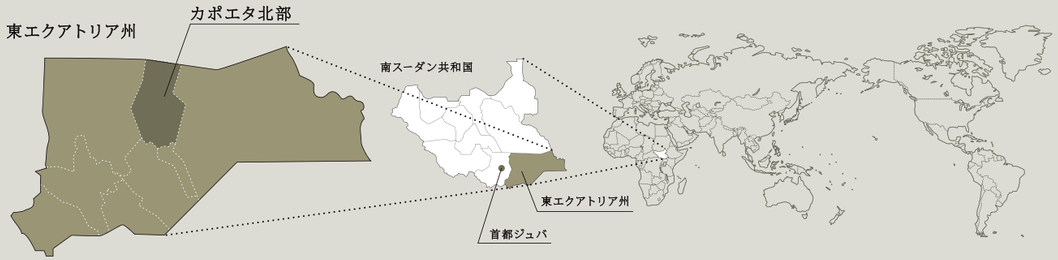


*2008年の第5回人口調査による。

子どもの命を守る、その他の支援活動のこと。

前ページでお伝えした、子どもの栄養不良を改善する取り組みと同時に、妊産期や授乳期の母親2,590人の栄養状態も測定しました。妊娠・授乳中の女性は、栄養不良にかかりやすく、エネルギー源やタンパク質、微量栄養素をいつも以上に必要とします。測定の結果、急性栄養不良と特定された女性847人に対しては、2週間に1回の定期健診と、混合補助栄養食の配布を行いました。また、今回の支援活動で力を注いだのが、地域の保健・栄養の状況を改善する「改善員」の育成です。巡回チームと一緒に栄養状態の測定を担当したり、定期健診の際には、参加した親に対して栄養に関する知識や情報を教えたり、また、定期健診に来ない家族には、個別に家庭訪問して健診への参加を促したりと、カポエタ北郡全体で栄養改善の底上げを図るために、地域住民の知識の習得と意識の向上を図りました。さらに、地域住民の参加をえて、活動の進捗状況や活動計画を共有する月例会議を開催し、これら一連の啓発活動で、26,036人の大人にリーチすることができました。





今回お伝えした南スーダンの緊急支援活動は、ジャパン・プラットフォーム(JPF)の助成を受け、2010年9月から2011年5月まで実施しました。

地球規模の視野で考えたい。

「こちらは今、地域の大人たちの人材育成に力を入れようとしています。カポエタの土地でどうやって作物を育てるか。質のよい食事を子どもに与えるにはどうすればよいか。病気をどう予防するか。すべては子どもたちを守るために、大人たちが考え始めています」

今年8月、南スーダンのSC事務所から、スタッフのジェンが連絡をくれました。今回の「SCJ」に掲載している写真のカメラマンでもあります。現在、緊急事態となっているアフリカ東部の大干ばつと食糧危機が、南スーダンに波及することはないとのこと。ただ引き続き、食料不足と、それによる子どもたちの栄養不良の問題が慢性的にあって、温暖化の影響で、乾季にはこれらの問題が年々深刻になってきていると教えてくれました。

その裏づけとして、今年3月にカポエタ北郡で実施した調査によれば、回答した大人の約半数が、牧草や飼料、水の不足で、収入源である家畜の数が少なくなってきていると言います。このため、食料をもとめて移動する、薪や木炭を売る、食事の回数を減らす、食用の野生植物をいつもより多く摂るなど、さまざまな形で事態に対処していることも明らかになりました。

今年に入り、東日本大震災を経験した私たち日本人も、自然災害による生活の変化を実感し、また、これからどうやって備えていくかということを考えていらっしゃる方もたくさんいます。アフリカにおいても、「アフリカの角」地域をはじめ、今回の南スーダンが、そして世界各地が、何かしらの変化に直面しています。このめまぐるしさの中で、子どもたちのために、SCは、そしてすべての大人たちは、未来のために何をしなければならないか？この冊子を読んでくださった全ての方と一緒に考えていきたい。ここにメッセージを発信します。

(「SCJ」編集者より)



カポエタ北郡。ボランティアがリードして、村長や長老たちと栄養改善について話し合っているところ

「変化にどう対応しますか。
子どもたちをどう守りますか」



Japan
［ 日本 ］

京阪神と沖縄で
子どもの貧困観ヒアリング調査を実施しました。

2010年7月から2011年2月にかけ、小・中・高校生約150名が本調査に参加し、日本の子どもの貧困についてSpeak Out、声をあげました。参加後、子どもたちからは「ちっちゃい時に感じる貧困と大人が感じる貧困は違うと思うし、その時にしか感じられないこともあると思う」「言いたいことが全て言えたので、とてもよかったです」という声が届いています。本調査の結果は、今年10月17日の世界貧困デーに合わせ、SCJホームページで公開します。ぜひご覧ください。



Vietnam
［ ベトナム ］

宇都宮大学との連携による食料確保のための
調査に、子どもたちが参加しました。

急速な経済発展に伴う格差の拡大で、少数民族が困難な状況にあります。その子どもたちが十分な栄養を摂取できるよう、ＳＣＪでは宇都宮大学と連携し、地域の食料状況を把握するための調査を行いました。この調査で最も活躍したのは子どもたちです。子どもたちが、栄養源を豊富に含む野草や魚といった身近な食べ物に、日頃から森や川で触れていることが分かり、今後の栄養改善事業で役立てていく予定です。



Mongolia
［ モンゴル ］

子どもたちが、公平な学校環境づくりに
取り組んでいます。

子どもたちが中心になって学校環境づくりができるよう、「生徒会」の運営を支援しています。2010年には、16校の生徒会が各校でキャンペーンを2回企画しました。その生徒会の子どもたちが、「学校で起こる体罰・不正・差別はどのように起こるか。その問題解決のため、自分たちは何をすべきか」をテーマに、啓発劇をつくり、生徒同士で討議する機会を設けました。多くの教師が、子どもの持つ可能性に気付かされたようです。



Japan
［ 日本 ］

子どもの支援を通して、中長期にわたり
東北の復興に尽力していきます。

緊急支援から復興支援へ。宮城と岩手、そして福島において支援を継続中です。震災後の新学期には、設備の復旧していない学校で、給食支援やバス送迎の支援などを実施したほか、放課後や夏休みの学童保育サポートも行いました。また、5月に実施した子ども1万人アンケートの結果を受け、「子どもまちづくりクラブ」を立ち上げました。子ども参加による地域復興を目指し、子どもたちは自分たちの故郷の再生と未来を語り合っています。



Myanmar
［ ミャンマー ］

ＳＣＪがミャンマーで支援を開始してから
今年で10年の節目を迎えました。

節目の年を迎えるにあたり、支援者の方々に感謝を申し上げます。この間、一貫して取り組んできたのが、5歳未満の子どもの栄養改善です。現在実施している栄養事業では、2010年3月から2011年5月までに、栄養不良の子どもの割合が半分に減少しました。成功の秘訣は、母親自身が、母乳育児や栄養のあるレシピを熱心に学び、日々の生活の中で実践していることです。今後も、母親をはじめとする地元の方々と一緒に、子どもたちの栄養改善に力を入れていきます。



India
［ インド ］

株式会社リコーと協働で
教育支援事業を開始しました。

2011年5月より、アンドラ・プラデーシュ州メダック県において、すべての子どもたちが質の高い教育を受けられるよう、株式会社リコーと協働で教育支援を開始しました。まずはリコーから、学校や教育局で必要とする印刷物を、効率よく印刷できるデジタル印刷機が10ヶ所に寄贈されます（すでに、8ヶ所で設置が完了しました）。これから、子どもたちや地域コミュニティといっしょに、印刷機の活用方法を開拓していきます。

各国活動の進捗・報告

活動国における支援の進行状況や
結果などについて、その一部をお知らせします。
今回は、日本をふくめ、アジア各国での
活動についてお伝えします。モンゴルやベトナム、
日本の子どもたちの活躍に、ご注目ください。



Save the Children JAPAN

今回お伝えしたミャンマーの活動は、外務省・日本ＮＧＯ連携無償資金協力から、モンゴルの活動は国際協力機構（ＪＩＣＡ）から助成を受けています。

＊みんなの広場＊

冊子「ＳＣＪ」は、私たちの活動をもっと丁寧にお伝えし、皆さまに共感いただくこと、
また、世界の子どもたちをはじめ、ＳＣＪに関わるすべての人のことを皆さまの近くに感じていただくことを目指しています。
この「みんなの広場」では、ＳＣＪからのお知らせをはじめ、皆さまからのメッセージやご質問も掲載いたします。

個人の方からＳＣＪ宛に メッセージをいただきました。

「私がＳＣＪの活動を知ることが出来ましたのは、知人がＳＣＪの職員であることからでした。いろいろな活動のお話を伺うにつれ、何かお手伝い出来ることがあればと思っておりました矢先、偶然、30数年前に亡き主人と指輪をあつらえに行った銀座の日新堂さんが、SCのためのチャリティ時計を販売されていることを知り、それを購入いたしました。可愛い絵柄の入った上質な製品を、とても気に入っています。今後も微力ですがお手伝いすることが出来れば幸いと存じます」

岡田美幸さんより

Save the Children JAPAN

たくさんの「書き損じはがき」「未使用はがき・切手」を ありがとうございました。

前号のニュースレターのこのコーナーで呼びかけをしたところ、今年１月から約７ヶ月間で、5,503枚、金額にして247,674円の「書き損じはがき」や「未使用はがき・切手」が寄せられました！ご協力をいただいた皆さま、まことにありがとうございました。これからもぜひお送りいただけますと幸いです。
ＳＣＪの住所は裏表紙の下、「セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン書き損じはがき係」宛にお願いいたします。
ＳＣＪの活動費として活用させていただきます。

Save the Children JAPAN

個人のご支援者の皆さまに、「寄付金控除」についてのお知らせです。

ＳＣＪは、このたび内閣府より税額控除のできる証明を受けました。確定申告※の際に所得税控除と税額控除のどちらかを選ぶことができ、多くの個人のご支援者の皆さまには、より大きな金額の所得税の還付が受けられることとなります。

（2011年1月1日から3月31日までのご寄付については、特定寄付金として所得控除のみが適用されます。）
※勤務先などで実施される年末調整では還付の手続きはできません。
詳しくは最寄りの税務署・税理士にお問い合わせください。

【寄付金控除（税額控除）】
（寄付金合計額 −2,000円）× 40％

ただし、年間所得の40％の寄付が控除の限度です。所得税額の25％を限度として控除が認められます。

【寄付金控除（所得控除）】
寄付金合計額 −2,000円

ただし、年間所得の40％が限度です。

Save the Children JAPAN

ＳＣＪのフェイスブック、はじめました。

ぜひアクセスして「いいね！」ボタンを押してください。
http://www.facebook.com/SCJ.SavetheChildrenJapan

ツイッターも引き続き、やっています。
ＳＣＪ全体に関わる情報は
http://twitter.com/#!/scjapan
ぜひジョインしてください

「EVERY ONE」の情報は
http://twitter.com/#!/akachan5

Save the Children JAPAN

ご支援者の皆さまへ

ご住所、電話番号、メールアドレスなど、ご変更がありましたら、弊会の「ドナーサービス係」まで必ずご連絡ください。
電話番号は裏表紙の下、メールでのご連絡は、donation@savechildren.or.jp宛によろしくお願いいたします。

Save the Children JAPAN

＊「みんなの広場」へのご投稿について＊

文章の長さは問いません。郵便か電子メールでお送りください。氏名を明記ください。掲載の場合は一部編集させていただくことがあります。実名掲載が不可の場合、一筆お書き添えください。送り先は裏表紙、「セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン ニュースレター編集係」宛。
メールアドレスはvoice@savechildren.or.jpです。いただいた個人情報は責任を持って厳重に管理させていただきます。



編集者のコラム

「ＳＣＪさんの写真は良いですね！」と、褒めてくださる方が増えたので、
今回は写真の話を少し。編集作業のとき、私の手元には、駐在員が撮影したものから、
プロのカメラマンの写真まで、かなりの点数が集まってきます。
それらを何度も何度も見返して、えりすぐった数点のみを最終的に使います。
私自身もカメラを握りますが、表情がコロコロっと変わる子どもの写真を撮るのは、かなり難しい。
ですから、ほとんどの写真は、残念ですが落選していきます。

それでは、「良い写真」とはどんな写真か？
それは、「子どもの感情のながれや、場の空気を読みとって、その一瞬をとらえることの出来た写真」。
これが今のところの私のこたえです。カメラの技術だけではない、心でとらえた写真が良い写真だと思うのです。
そんな写真が撮れるようになるには、「子ども目線」になる努力が何より大事。
カメラの道は、なかなか険しい。そう感じる今日この頃です。

「SCJ」編集担当／岡田茜



Stakeholder Interview & Information

＜特別インタビューとお知らせ＞



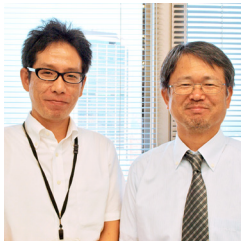
FELISSIMO

株式会社フェリシモ
マーケティング本部
取締役本部長
星　正様

株式会社フェリシモ
フェリシモ基金
事務局長
宮本　孝一様

「ともにしあわせになるしあわせ」の実現をめざして

株式会社フェリシモは、オリジナル企画商品を中心に、カタログなどで商品販売を行うダイレクトマーケティングの会社です。SCJは、商品の売上寄付や助成事業、また、フェリシモのお客様が作られたぬいぐるみを世界の子どもたちに届ける「ハッピートイズプロジェクト」など、さまざまなご支援をいただいています。そのご支援の根幹にあるのが、経営理念の「しあわせ社会学の確立と実践」。「ともにしあわせになるしあわせ」をテーマに、全ての事業を展開していらっしゃるそうです。これは、商品を通してお客さまの生活を豊かにするだけにとどまらず、地球規模の「しあわせ」をフェリシモのお客様とともに創りあげることを目指すものだそうです。こういった社会文化活動は、お客様のなかから企画提案があることもあり、ダイレクトマーケティングならではの、企業と顧客の直接的なコミュニケーションが、ユニークな社会活動を生み出していらっしゃいます。



星様（右）と宮本様（左）

シュライカー大阪、東北の子どもたちを支援

Shriker OSAKA

日本フットサルリーグ参戦中のシュライカー大阪には、2011年シーズンを通して、東日本大震災で被災した子どもたちへの支援活動に取り組んでいただいています。選手たちのユニフォームの背中にはSCJのロゴも入っています。ホーム開幕戦であった8月7日の試合会場では、全サポーターの皆様とともに、東北の子どもたちへ想いを伝えるボードアクションを行ってくださいました。



http://www.shriker.jp/supportservice.html

Tポイント募金で、子どもたちの命を救おう！

T-POINT

カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社からは、貯まったTポイントを「1ポイント=1円」に換算して寄付ができる仕組み「Tポイント募金」を通して、ご支援をいただいています。集まったご寄付は、SCのグローバルキャンペーン「EVERY ONE（エブリワン）」の、5歳未満の子どもの命を救う活動に役立てられます。Tポイントをお持ちの方がいらっしゃいましたら、ぜひご協力ください。



http://tsite.jp/donation/

共同チャリティープロジェクトでSCを支援

Seeds of a Big Thanks 午後の紅茶

× Q-POt.

キリンビバレッジ株式会社は、「キリン 午後の紅茶 Sweet&Zeroシリーズ」のリニューアル発売を記念し、アクセサリーブランド「Q-pot.」との共同プロジェクトとして、コラボレーションパッケージを期間限定で展開。売上の一部を、「午後の紅茶」の主な茶葉産地であるスリランカの茶葉農園で働く人々と、その子どもたちへの教育支援にご寄付くださいました。



http://gt-q.jp

発行：公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン　〒101-0047 東京都千代田区内神田2-8-4 山田ビル4F　ご支援に関するお問い合わせ：03-6859-0068（平日 9:30-18:00）

2011年9月発行　印刷協力：星光社印刷株式会社